

# 開拓村の社会変動と学校教育

—— 北海道白老町森野の事例 ——

1. 社会変動 秋田大学 ○佐藤 守

2. 学校教育 湯沢中学校 ○土田 有善

北海道の開拓は、古く開拓使時代にまでさかのぼる。しかし、この研究調査の事例である白老町森野の開拓は、せいぜい明治末期から大正初期にかけての、日本資本主義が、いわゆる独占段階に突入した時期にはじまる。森野地区（現在の森野小中学校通学区）では、明治末期の鉱山の開発、第1次大戦後の不況による鉱山の没落、ついで昭和恐慌期において内地農山村の次三男入植によって本格的な開拓が開始されていった。更に戦後、樺太引揚者たちの入植がみられた。現在、同地区には昭和初期の開拓農民、戦後の引揚者を中心とする酪農志向農民を中核にして、バライト鉱山、営林署労務者がその周辺に蛸集している。否、今日の道央地区新産都市指定を契機として、農民は土地ブローカーによる農地の収奪によって、営林署、鉱山労務者へと急速に転落しつつあるといった方が適切であろう。かくて、開拓村の社会変動の軌跡は、日本資本主義の描いてきた農業政策を典型的な形態で表現するものといえるのである。「1. 社会変動」は大凡、次の時期によって発表することになる。

- (1) 開拓前史（明治末期～大正末期）……鉱山の開発とその没落
- (2) 内地農民の入植（昭和前期）
- (3) 引揚者の入植（戦後）
- (4) 所得倍增政策下における開拓農民層の分解と住民意識

明治末期から昭和初期にかけての森野地区には、勿論、正規の小学校は設置されていなかった。明治45年から大正3年までに、1、2の篤志家による寺小屋の3Rの授業が行なわれたが、それはどこまでも一時的なものでしかなかった。同地区に、はじめて小学校が開設されたのは、内地農民の入植時期である昭和8年9月である。更に昭和25年4月、中学校が併設されて今日に至っている。

「2. 学校教育」の発表においては森野小中学校の学校史の分析をしようとする

ものではない。最近の同校、複式学級経営における放送教育の実践を素材にして、その分析再検討がなされ、開拓村における学校教育のもつ基本的性格を析出しようとするものである。